

# 連携拠点・情報発信拠点について

～（仮称）東日本連携支援センターの整備状況～



平成29年11月1日  
さいたま市

## これまでの経緯

H27.11

- 北陸新幹線の延伸及び北海道新幹線の開業を契機に、東日本の各都市の連携による地方創生及び地域の活性化を目的に第1回東日本連携創生フォーラムを実施
- 情報発信拠点（センター）の整備をさいたま市より提案、整備の方向性が示される

H28.3

- 首都圏広域地方計画にて大宮（さいたま市）が東日本の対流拠点に位置付けられる

H28.11

- 第2回東日本連携創生フォーラムを実施。
- センターの整備状況について報告。引き続き、連携自治体等のニーズをくみ上げ、利用しやすいセンターとすることで一致。

H29.2

- 連携都市及び地域関係者、有識者に対しニーズ調査を実施。

H29.6

- さいたま市の都市経営戦略会議にてセンターの設置場所及び導入機能の方向性をさいたま市役所として決定。

現在

- センターの設計（具体的な機能、運営スキーム、収支等）を実施するにあたり、地域関係者、有識者等に対し、ヒアリングを実施

## 設置場所

### 三井住友信託銀行大宮支店跡地

住所 : さいたま市大宮区大門町1-6-1  
フロア構成 : 1階~3階  
賃貸面積 : 514㎡ (155.7坪)  
(1階、2階部分を使用)  
歩行者数 : 平日25,000人 休日: 20,000人



#### 【特徴】

立地 : 駅ロータリー至近で、東口で最も商業ポテンシャルの高い立地の一つ。視認性◎。

#### 施設構造・規模

: 一括賃貸で一定の施設規模を確保でき、多様な機能を導入できる可能性を持つ。

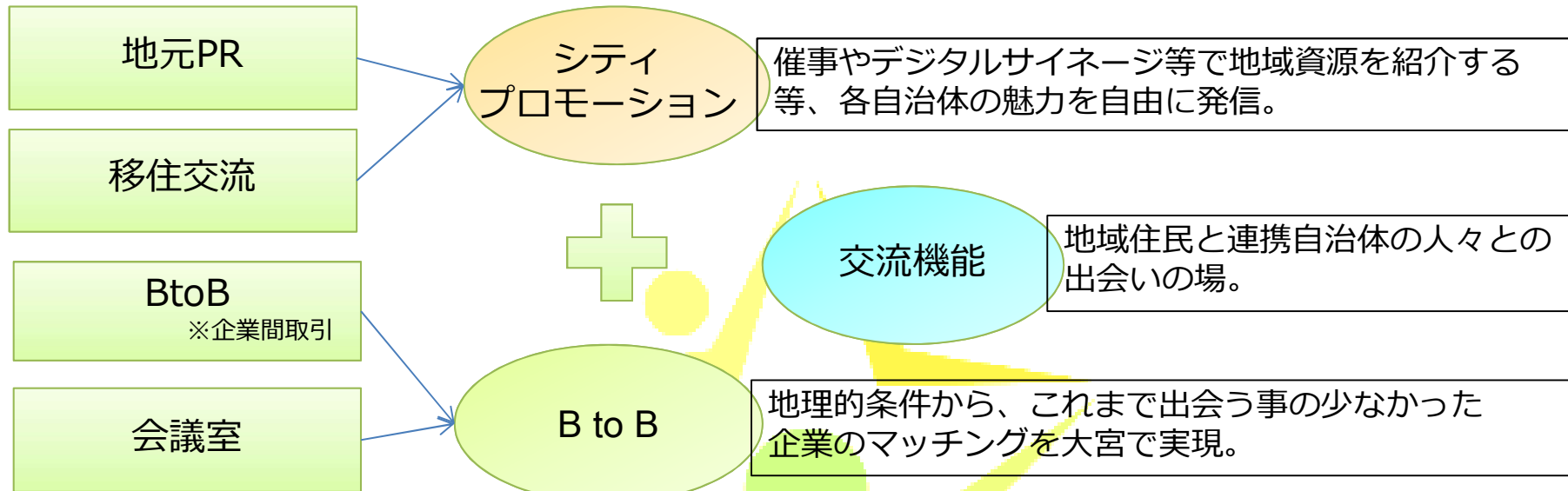
#### 物件タイプ

: 一括賃貸で自由度の高い施設づくりが可能。

# 導入機能

## 連携都市のニーズ

## 導入機能案



郷土料理教室による交流



商談会 (BtoB)



さいたまと連携都市との  
ネットワーキング



地域資産発掘、  
販路拡大



ワークショップによる交流

連携都市（19自治体）、地域事業者・経済団体等へのヒアリングを通じて得られた4つのニーズを2つの機能（シティプロモーション、BtoB）に再構成、2つの機能を高めるため、「交流機能」を追加し、3つの機能としたい。

# シティプロモーション・交流機能

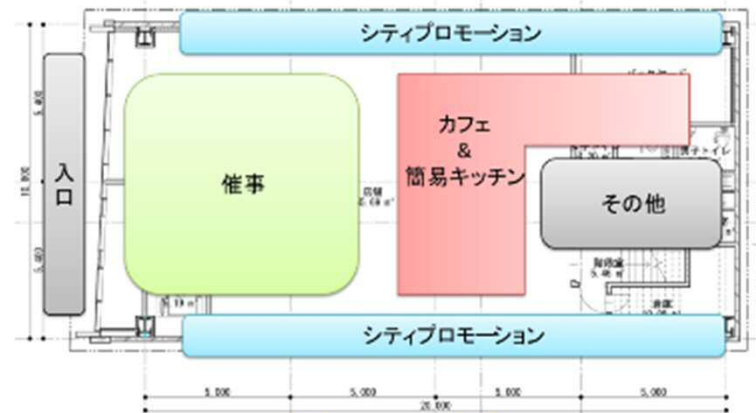
## ◎催事

来場者に対してプロモーションを行うイベントスペース。



## ◎カフェ

簡単な飲食を提供。  
ご当地〇〇など、東日本の産品を扱うことで、シティプロモーションやテストマーケティングを兼ねることが可能。



◎シティプロモーション  
貸棚やデジタルサイネージを活用しての情報発信。  
VR体験による臨場感溢れる演出も。



## ◎簡易キッチン

各地の魅力ある商材を  
実際に味わってもらう  
ことで商談やテストマ  
ーケティング、ネット  
ワーキングイベント等  
幅広い分野での利活用  
が可能。



# B to B 機能

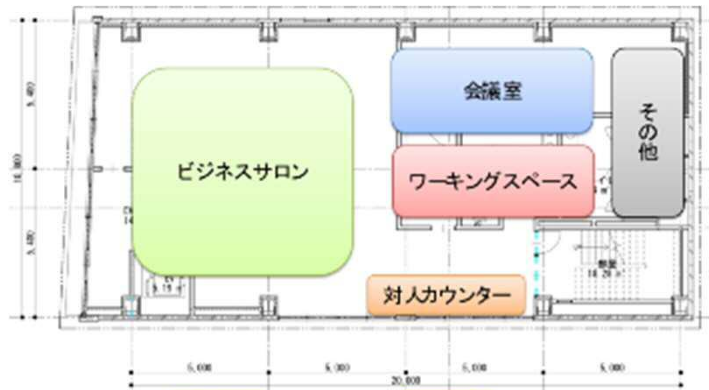
## ◎ 会議室

クローズドの環境で商談等を行うスペース。  
大宮駅周辺で人の目や耳を気にせず話せる環境は意外と少なくビジネスユースが見込まれる。



## ◎ ビジネスサロン

ビジネスマンなどがふらっと立ち寄ることのできるサロン。  
ビジネス交流ワークショップや講座開催など、イベント利用も可。



◎ ワーキングスペース  
複合機の設置やWi-Fi等、ビジネス環境を整備し、ちょっとした事務仕事を行うスペース



## ◎ 対人カウンター

コーディネーターやアドバイザーが常駐し、東日本の「情報」の集積を行う。ビジネスマッチングや移住促進等、連携都市からの幅広いニーズへの対応も検討可能。



## 導入機能イメージ



## 導入機能イメージ

